

# 秋田県のダイズ圃場におけるウコンノメイガの発生状況と要防除水準の検討

秋田県農業試験場 たか はし よし とも  
高橋良知

## はじめに

秋田県におけるダイズの栽培面積は7,900 ha (2015年10月27日公表 農林水産統計)で、全国第5位であり、本県ではイネに次ぐ重要な農作物の一つである。生産者からは高品質・安定生産のために、ダイズで発生する多様な病害虫に対する防除技術の確立が望まれている。

ダイズの食葉性害虫であるウコンノメイガ(*Pleuroptya ruralis*)の北陸や東北地方における発生状況についてはこれまでに数多く報告されている(西土ら, 2003; 齋藤ら, 2005; 三田村・松木, 2008; 横田, 2011; 狐塚ら, 2012)。秋田県では2002年ころから発生面積が増加し、2006年には5,397 haで発生が確認されたため(図-1)、ウコンノメイガに対する防除技術の確立が急務の課題であった。

防除技術の確立に際して、発生之最も多かった2006年には、ウコンノメイガに農薬登録のある薬剤がCYAP粉剤のみであったため、生産現場からは農薬の登録拡充を強く求められた。特に本県では水稲の転作作物として1 ha規模の大区画圃場で栽培されている場合が多く、一斉防除が可能な無人ヘリコプターによる防除薬剤の拡充が必要とされた。

ウコンノメイガの成虫はダイズの葉に産卵し、ふ化した幼虫は葉巻を形成してその中で葉を食害する。さらに成虫は生育の旺盛なダイズ圃場に飛来する傾向があり(田村・山内, 1958; 成瀬・新田, 1985)、被害は圃場間差が大きくなるため、圃場ごとの発生量に応じた防除要否を判断する指標の作成が望まれていた(口絵①②③)。

そこで、2007～10年に地上防除と無人ヘリコプターで使用する有効薬剤の検索と要防除水準について検討を行った。本稿では葉巻数を指標とした要防除水準について報告する。

本稿の内容は既に発表済みであり(高橋ら, 2011)、詳細はそれらを参照していただきたい。

Occurrence and Control Threshold of Bean Webworm, *Pleuroptya ruralis*, in Soybean Fields of Akita Prefecture. By Yoshitomo TAKAHASHI

(キーワード: ウコンノメイガ, 要防除水準, 発生状況, ダイズ)

## I ウコンノメイガの発生状況

本種は、1999年に230 haで発生が確認される程度で、ほとんど問題視される害虫ではなかった。しかし、2002年以降発生量が増加し、最も発生量の多かった2006年は栽培面積の約70%に相当する5,397 haで発生が確認された。その後は2007, 08年のそれぞれに4,642 ha, 4,925 haで発生が確認されたが、2009年以降は急激に減少し、近年の発生面積は栽培面積の約20%に相当する1,100～2,000 ha程度で推移している(図-1)。

## II 要防除水準の検討

### 1 経済的被害許容水準

経済的被害許容水準は、ダイズ栽培の粗収益に対する薬剤費の割合から算出した。薬剤は、試験を開始した2007年にウコンノメイガに対して農薬登録のあったCYAP粉剤を4 kg/10 a, 1回散布した場合の費用を用い

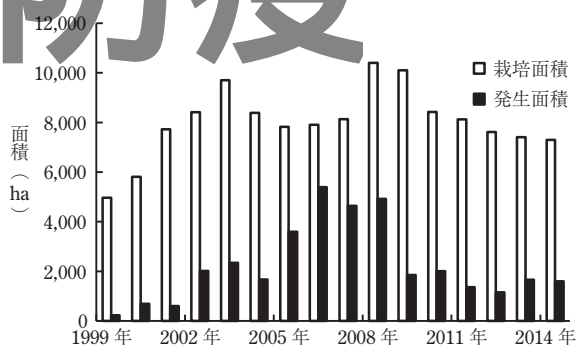


図-1 秋田県におけるダイズの栽培面積とウコンノメイガの発生面積の年次推移  
(秋田県農林水産部発行 植物防疫年報)

表-1 経済的被害許容水準の設定

収量 <sup>a)</sup>	単価 <sup>b)</sup>	粗収益 <sup>c)</sup>	薬剤費 <sup>d)</sup>	経済的被害許容水準 <sup>e)</sup>
153 kg	6,998 円	17,845 円	1,013 円	5.7%

a) 収量は、2010年農林水産統計による秋田県の10 a 当たり平均収量。

b) 単価は60 kg 当たり。

c) 粗収益に固定払交付金は加算していない。

d) 薬剤費はCYAP粉剤を4 kg/10 a 散布することとして求めた。

e) 粗収益に対する薬剤費の割合から算出した。